

⑯ 日本国特許庁 (JP) ⑰ 特許出願公開
⑰ 公開特許公報 (A) 昭57—69856

⑮ Int. Cl.³
A 61 F 13/18
A 41 B 13/02

識別記号 庁内整理番号
7033—4C
7149—3B

⑯ 公開 昭和57年(1982)4月28日
発明の数 1
審査請求 未請求

(全 4 頁)

⑲ 衛生用品吸收体

⑳ 特 願 昭55—146565
㉑ 出 願 昭55(1980)10月20日
㉒ 発明者 鈴木磨
川之江市川之江町2666

㉓ 発明者 佐々木哲

川之江市金田町半田乙385—1
㉔ 出願人 ユニ・チャーム株式会社
川之江市金生町下分182番地
㉕ 代理人 弁理士 白浜吉治

明細書

1. 発明の名称

衛生用品吸收体

2. 特許請求の範囲

(1) 吸收体が解纖パルプ層と高吸収性シートとかなり、前記解纖パルプ層の中央部には前記高吸収性シートが重ねられ、前記解纖パルプ層と高吸収性シートのほぼ全域には互に連続しないプレス部と互に連続する非プレス部が生ずるようエンボスが施されていて該エンボスにより前記解纖パルプ層と高吸収性シートとが一体化されており、前記解纖パルプ層の両側部は前記高吸収性シートが前記解纖パルプ層の内部に位置するよう互に内方へ折重ねられていることを特徴とする衛生用品吸收体。

(2) 高吸収性シートの両側端部が解纖パルプ層の両側部の折重ねにより形成された両側折曲端部に接していないことを特徴とする特許請求の範囲第1項記載の衛生用品吸收体。

(3) 高吸収性シートが水不溶性にして吸収膨潤性

性を有する高分子物質からなり、または該物質の粉末を含有してなることを特徴とする特許請求の範囲第1項記載の衛生用品吸收体。

(4) 高吸収シートが水不溶性にして吸収膨潤性を有する高分子物質の粉末を吸収性シート間にサンドwich状に一体的に挿着したもの、該物質の粉末を吸収性シートの少なくとも片面に一体的に定着したもの、該物質の粉末と解纖パルプとを適宜割合で混合してシート状に圧縮成形したもの、該物質のフィルム、該物質のフィルムの少なくとも片面に吸収性シートをラミネートしたものの少なくとも一種からなることを特徴とする特許請求の範囲第3項記載の衛生用品。

(5) 互に連続しないプレス部の占有割合が15～60%であることを特徴とする特許請求の範囲第1項記載の衛生用品吸收体。

3. 発明の詳細な説明

本発明は、生理用ナプキン、便捨ておむつなどの衛生用品吸收体の構成に関する。

従来、この種の吸收体として、解纖パルプ層の

内部や下面部に水不溶性にして吸収膨潤性を有する高分子物質のフィルムからなり、または該物質の粉末を含有してなる高吸収性シートを位置させたものが実用に供されている。かように解繊パルプ層に高吸収性シートを位置させてある理由は、解繊パルプ層に吸収された体液を高吸収性シートにより吸収拡散、保持することにある。しかるに従来の吸収体においては、解繊パルプ層と高吸収性シートとを単に重ねてあるにすぎないので、解繊パルプ層に吸収された体液は、高吸収性シートに移行する力が弱く、解繊パルプ層に残留する傾向が大きく、そのため肌当面へ滲出してその面がいわゆるペトツキが生じ着用者に不快感を与える、したがつて高吸収性シートを解繊パルプ層の内部や下面部に位置させた効果が充分に奏しなかつた。

一方、従来、解繊パルプは、安価で優れた柔軟性、弾力性を有することから衛生用品の吸収体として多用されているが、拡散性が低いという欠点があり、このため解繊パルプ層を全体的にプレスし、または部分的に線状にプレスしたものが実用

(3)

てもよい。

高吸収性シート3は、最も好ましくは水不溶性にして吸収膨潤性を有する高分子物質の粉末を吸収性シート間にサンドイッチ状に一体的に挿着したもの、該物質の粉末を吸収性シートの少なくとも片面に一体的に定着したもの、該物質の粉末と解繊パルプとを適宜割合で混合してシート状に圧縮成形したもの、該物質のフィルム、該物質のフィルムの少なくとも片面に吸収性シートをラミネートしたものの少なくとも一種からなり、その両側端部5が解繊パルプ層2の両側部4の前記折重ねにより形成された両側折曲端部6に接しない状態で解繊パルプ層2の内部に位置させてある。

さらに第2図、第3図A、Bに示すように吸収体1は、解繊パルプ層2の中央部に高吸収性シート3を重ねた状態で、その全域に互に連続しないプレス部7と互に連続する非プレス部8とが生ずるようエンボスを施しており、このエンボスによつて解繊パルプ層2と高吸収性シート3とを一体化してある。第3図Aに示す吸収体1は片面に、

(5)

供されている。しかしかかる吸収体は、前述のようにプレスしてあるため、吸収体の全体が硬くなり、解繊パルプの利点である柔軟性、弾力性が損われるという欠点がある。

本発明の目的は、前述のような欠点などを解消することにあり、その目的を達成するための、本発明の構成を図示の実施態様を例にして説明すると、以下のとおりである。

第1図A、Bに示すように本発明に係る吸収体1は、マット状の解繊パルプ層2と高吸収性シート3とからなつてゐる。

解繊パルプ層2は、その両側部4を互に内方へ折重ねてあつて、第1図Aに示すものにおいては両側部4の端面を対向接觸させ、第1図Bに示すものにおいては両側部4を上下に重ねてある。図示していないが、解繊パルプ層2の少なくとも片面には、解繊パルプを生理用ナプキン、使捨ておむつなどの吸収体に形成して用いる場合に一般になされているように必要に応じてパルプ、レーヨン繊維などからなる透水性シートを位置させてあつ

(4)

第3図Bに示す吸収体1は両面に凸凹が生ずる上にエンボスを施してあるが、そのエンボスは、解繊パルプ層2と高吸収性シート3とを一体化し、しかも互に連続しないプレス部7と互に連続する非プレス部8とが生じている状態であれば、第3図A、Bの吸収体1のいずれであつてもよい。また第4図A、B、C、Dに示すようにプレス部7と非プレス部8とからなるエンボスの型態模様は多種多様であつて限定されないが、吸収体1の上面のほぼ全域に対するプレス部7の占有割合は、15～60%であることが好ましく、15%以下では所望の拡散性、保型性などが得られず、60%以上では全体が硬くなる。

なお、かかる吸収体1は、たとえば、少なくともその下面に不透水性シートを位置させ、これら全体を外装用透水性シートにより被覆することにより、衛生用品を構成するものであるが、もとより本発明においては、吸収体1自体の構成に関するものであつて、衛生用品全体の構成がいかになつているかを問うものではない。

(6)

本発明によれば、吸収体1を構成する解繊パルプ層2と高吸収性シート3とは互に重ねられて一体化されているので、解繊パルプ層2に吸収された体液が高吸収性シート3に効果的に移行して吸収保持され、このため肌当面となる解繊パルプ層2に吸収されて残る体液が少くなり、その残留体液の表面への滲出による肌当面のいわゆるペトッキが解消される。また吸収体1のエンボスは互に不連続しないプレス部7と互に連続する非プレス部8とからなつてるので、吸収体1全体の柔軟性が損われないうえに、互に不連続しない各プレス部7がそれら間の体液を吸引する機能を果し体液の拡散を増大させることになる。

さらに解繊パルプ層2に高吸収性シート3が重ねられた状態で前記エンボスが施されている場合は、解繊パルプ層2にだけ前記エンボスが施されている場合に比較して、高吸収性シート3が重ねられた部分のエンボスプレス圧が高吸収性シート3の厚さ分だけ他の部分よりも大きくなる。したがつて、衛生用品の着用時に内股に当る解繊パル

プ層2の両側折曲端部6にも高吸収性シート3が重ねられている場合にはその部分の柔軟性が低下することになるが、その両側折曲端部6には高吸収性シート3が位置していないので、その部分の柔軟性が低下することがない。またプレス圧が大きくなつている部分は、他の部分よりも体液の吸収拡散性が強くなるので、体液は解繊パルプ層2の側部へ拡散するよりも前に高吸収性シート3の長さ方向へ拡散する性質が強くなり、このため衛生用品の側部からのいわゆる横漏れがなくなる。

さらにまた解繊パルプ層2と高吸収性シート3とが重ねられた状態でエンボスを施しているうえに、解繊パルプ層3の両側部4が折曲されているので、吸収体1全体の型崩れを防止することができるとともに、その折曲により形成された両側折曲端部6の曲面と弹性によつて内股に対する圧接感を良好にすることもできる。

4. 図面の簡単な説明

図面は本発明吸収体の実施態様を示すもので、第1図A, Bはエンボスを削略した厚さ方向の吸

(7)

(8)

收体の断面図、第2図は吸収体の部分平面展開図、第3図A, Bはエンボス構造を示す吸収体の厚さ方向の部分拡大断面図、第4図A, B, C, Dはエンボスの模様を示す部分平面図である。

1 ···· 吸収体	2 ···· 解繊パルプ層
3 ···· 高吸収性シート	4 ···· 両側部
5 ···· 両側端部	6 ···· 両側折曲端部
7 ···· 連続しないプレス部	8 ···· 連続する非プレス部

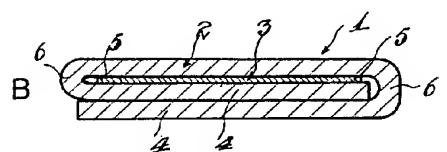
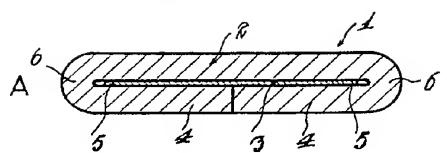
代理人弁理士 白 浜 吉 治



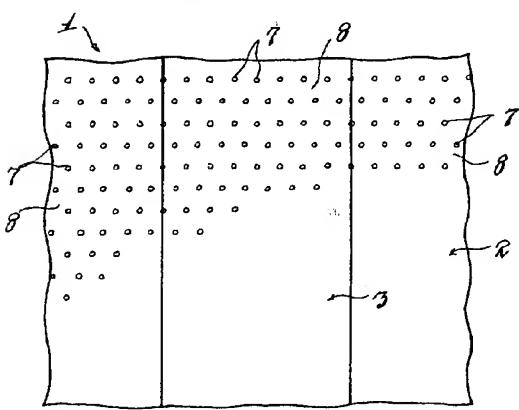
(9)

—301—

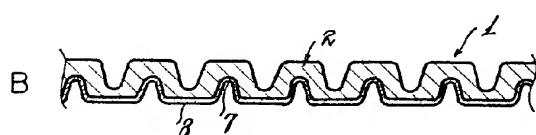
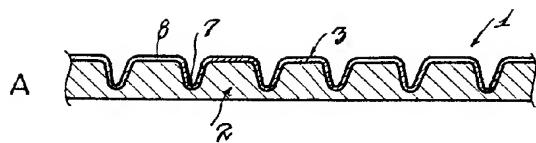
第 1 図



第 2 図



第 3 図



第 4 図

